

卓話

平成 17 年 8 月 2 日

旗幟鮮明

吉田 稔様

- ・ 染物屋の本来の地位
- ・ 暖簾の由来の目的
 - 日差し、風、塵、人目等を除ける。
 - 平安時代末期の絵巻物、絵画に庶民の軒先に現われる。12世紀前半（鎌倉時代前期）の源氏物語絵巻に壁代（カベシロ）帳（トバリ）几帳（キチョウ）等布の調度品が多くでてい
 - る。江戸時代初め味気ない白無地、紺無地に商家の商標等が入られるようになる。外国にはこの類のものは無い。今日まで変革を続け受け継がれてきた。
- ・ 古都の暖簾
 - 発祥は日本の古都ではないだろうか？華やかで品がある作品が多い。
 - 優美な京暖簾、粋な江戸暖簾。
- ・ 暖簾の染色
 - 藍が一番で呉服屋が多い。柿色は水商売が多い。菓子屋、薬屋は白黒が多い。
 - 茶色はタバコ屋、紫は禁色だった。
- ・ 暖簾の形
 - 長尺物は呉服屋、宿屋、半尺物はそば屋、すし屋でくぐる物。
 - 短尺物は水引で塵よけ。
- ・ 暖簾の素材
 - 一般的に布、氷屋等にビーズ玉、ガラス玉、木の玉の珠暖簾、居酒屋等に縄のれん。
- ・ 暖簾の力
 - 営業上の信用、権利を意味する。暖簾分け、資本金としての暖簾代。
- ・ 暖簾の模様
 - 目印として模様が入る。正安元年（1299年）丹伊という人が鶴丸をいれ好評となり商人がこぞって入れる。室町時代には商品柄を入れて作り競う。
- ・ 暖簾の文字
 - 江戸時代の元和2～3年（1616～17年）に文字入りの暖簾が出てくる。庶民の識字能力が低かった時代の図柄から文字入りに変わっていく。
- ・ 結界の美
 - 異なった二つの世界を隔てる。又は結ぶ。歴史との（古いにしえ）結界も出来る。
 - 日本文化と伝統による物、現代建築には無理。
- 旗
 - 文字の意味
 - ・ 狼煙の持つ意味
 - ・ 旗の力
 - ・ 旗の模様
 - ・ 旗の形
- 幟
 - 文字の意味
 - ・ 幟の力
 - ・ 幟の模様
 - ・ 幟の文字
 - ・ 幟の形
 - ・ 武者幟の意味



旗幟鮮明の本来の意味
自分の本来のあるべき姿を見極める様に努める。